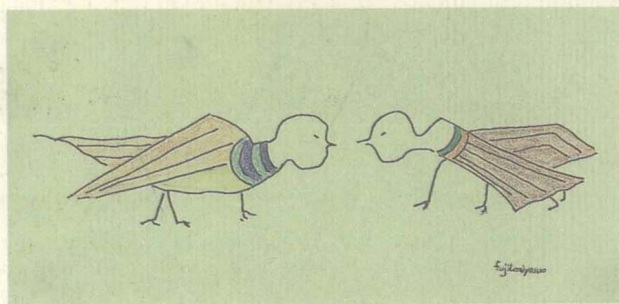


小 動 物 詩 集

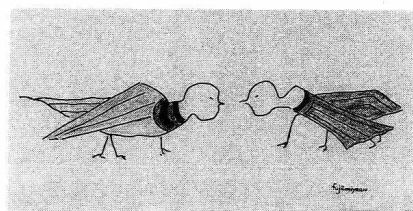


菊
田
守

Mamoru Kikuta

本多企画 | HONDA KIKAKU

小動物詩集



菊田 守

本多企画

HONDA KIKAKU

小動物詩集

一九九三年五月二二日発行

著者 菊田 守 © Mamoru Kikuta

発行者 本多 寿

発行所 (有)本多企画

〒八八〇・一二二 宮崎県東諸県郡高岡町花見二八九四
電話〇九八五・八二・四〇八五

印刷 本多企画印刷部

製本 あすなろの里

定価 二〇〇〇円 (本体価格一九四二円)

目次

小動物詩集

I

鴉の日	36
のどの乾いたカラス	34
カラスの商標	32
変容のカラス	29
すずめ断章	26
モズ	24
生きている音	22
母のすずめ	20
すずめのうた	18
すずめ	16
寒雀	14
風羅坊の雀	12
雀	10

II

紅い帯 40

ざりがに釣りの餌 42

奇妙な運命 44

平目 46

ひらめ 48

鮎 51

鮫 54

鮫鯨の唄 56

III

寒蟬の唄 60

蟬の唄 62

蟬 64

ニイニイゼミ										
かなかな	68									
蟬のうた	70									
ニイニイ蟬										
蝶	73									
初秋	74									
赤蜻蛉	76									
蟻の唄	79									
蚊の生涯	80									
水を飲む蚊	82									
みずすまし	88									
八手とアマガエル										
砂漠の蛙	92									
ヒキガエル	94									
豆絞りの手拭	96									
蛙の姿勢	99									

著作一覽	あとがき	*	夢の豚	さそりの親	麒麟の首	鰐	蜘蛛	とかげ	しつぽ	とかげのしつぽ	IV	奇妙な戦争	満月
126	124		122	120	118	114	112	111	110			100	103
										108			

菊田守

小動物詩集

雀

雀をつかむことは
出来ないことではないが
できることではない
雀を殺すことは
己れを殺すことである

雀が自由自在にとんでいるのは
人間が自由に歩くことと同じである

熱い瓦屋根の上から

挨拶されてびっくりした

雀だった

雀の目にわたしが映っていた

（詩集『蚊の生涯』）

風羅坊の雀

多摩川の

ススキの原の

一本の細いススキの穂先に

群から離れ

雀が一羽とまっている

不確かな自分を確かめているのか

雀のいまいる位置は

不安定で

風に吹かれるススキの穂先

身体の重みで

茎は撓^{しな}うが折れはしない

暫くは 此処に

こうして

生きている重みを確かめている

風羅坊の雀

註・笈の小文「百骸九竅の中に物あり。かりに名づ
けて風羅坊といふ」

（「未刊詩集」）

寒 雀

もうつえばむ穂もなくなり

ひくい軒先にまでやってきた雀をつかまえて

毛をむしり

肉を焼く

こどものとき

つかまえた雀が死んだようになって

かわいそうなことをしたと

不安にふるえ

静かにひらいたぼくの掌から